

+++++

「植物と人々の博物館メールマガジン」 第34号 2017年9月13日発行

+++++

夏野菜もやっと取れ始め、万願寺トウガラシ、ムラサキトウガラシ、カボチャはなんとか良好です。ナス、トマトやピーマンなどのナス科は不作です。根深ネギやポロねぎは早く植えたのでよかったのですが、九条ネギの苗はとても良かったのですが、長雨で溶けてしまいました。雑穀の安定した作柄は素晴らしいです。高野長英の救荒二物考（ジャガイモ、ソバ）に加えて、雑穀を大事にしてほしいです。ところで、サツマイモは100本植えた時は日照りで、20本ほどしか活着せず、その後雨ばかりで成長が悪く、さらに、イモが肥大もしていない9月早々、電気柵があるにもかかわらず、イノシシに掘り返されてしまいました。まばらに定植してあったのに、サツマイモだけを探し当てて、食べてしまいました。野生はどんどん過疎の村に順応してきています。

会員および配信を希望される方に「植物と人々の博物館」の公開活動ニュースなどをお送りしています。なお、自然文化誌研究会の全体の活動は「ナマステ」でお知らせしています。地方創生と大騒ぎしていても、「辺境」の地道な市民活動にはほとんど関心がもたれませんので、顔見知り信頼のクチコミで友人・知人に転送伝達していただけるとうれしいです。

○報告

1. FAO 世界農業遺産の関連情報をお伝えするウェブページ『雑穀街道』では、雑穀街道普及会の賛同者を募っています。賛同が広がるようにどうぞご援助くださいますようお願いいたします。雑穀街道普及会の賛同者は70名ほどになりました。この100倍ほどを目指したいと思います。FAO世界農業遺産ですから他地域や外国の方々も含めて賛同者を増やすように一層のご助力をお願いします。9月8日には、西原びりゅう館の長田さんのご紹介で、上野原市の地域創成担当者にお会いしました。

下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。紙ベースの資料・図書は「植物と人々の博物館／森とむらの図書室」で閲覧していただけます。 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

2. 植物と人々の博物館の移転

秋になりましたら、新「植物と人々の博物館」の整備を進めます。来年にむけて、展示「多様な生業」を企画中です。

3. ミレット藤野・自給農耕ゼミおよびパーマカルチャー・フェスティバル2017

連続講義・実習は行われています。講義資料は、ホームページ「雑穀街道」のなかで、e-ラーニングできるようにします。

4. 伝統知研究会の報告書「都市民と農山村をつなぐ仕事と学びの創造」ができました。会員の方には近日中にナマステと一緒に送られます。下記ホームページほかでも読めるようにしてありますが、たくさん印刷したのでご希望の方には郵送します。

○予定

1. 作業予定日：9月8日（金）、15日（金）、29日（金）、10月6日（金）ほかの予定です。

移動先の植物と人々の博物館では、順次、図書・資料や民具の展示を再開していきます。作業にご協力いただきたく、よろしくお願ひします。ご協力いただける方は黒澤または木俣にメールしてください。ご都合に合わせて、日程調整します。

kibi20kijin@yahoo.co.jp

2. ミレット藤野で雑穀栽培ワークショップが企画されています。

5月下旬から秋まで6回、播種から加工・調整、調理まで実技と講義を行います。詳細は下記ホームページにあります。

<http://www.milletimplic.net/collegefores/milletfujino17.pdf>

申込先：メール milletfujino@gmail.com ファックス 042-687-5639

3. 「憲法に環境原則を追加する提案」についての研究会が認定NPO法人環境文明21（憲法部会）で8月21日（月）から再開され、次回は9月25日（月）午後6時（大崎）に行きます。ご興味があれば詳細をお知らせします。

現在の提案書（憲法前文と第三章環境を加筆）は次のホームページで読めます。

<http://www.kanbun.org/2017/170824teigen/170824teigen.html>

4. 芋煮会を今野さん一家主催でします。良かったらご参加ください。小菅産有機無農薬のサトイモなど提供いたします。10月7日（土）昼前後、武蔵野公園、自動車免許試験場の北側。ご連絡いただければ詳細ご案内します。

5. 雑穀でおねりをつくるワークショップを開催するために、協力依頼がありました。

日時未定です。

6. 提案

1) 第40回環境学習セミナー(案)

話題：雑穀街道における家族農業、自給農耕、ファーマーズマーケットの楽しみと食料安全保障について、2・3人の講師をお願いして話し合いたいと考えます。日時：12月。場所：上野原市。都市農業や家族農業の文献を集めています。

2) 日本村塾ゼミ(読書会継続)

皆様お忙しく、なかなか開催できませんが、秋になり、希望者があれば開催します。ご意見、ご要望をお知らせください。自給農耕ゼミはミレット藤野で開催することになりましたので、読書会は下記2ゼミで行います。縄文農耕の発掘も進み、日本の庶民史が面白いです。Mardock(1959) "Africa. Its people and their culture history" と Saure(1952) "Agricultural Origins and Dispersals" を読んでいます。時空間を超えた大きな構想力が素晴らしく、濃い内容の本です。

*長倉洋海さんがテレビで、マスードの山の学校について話しておいででした。学大探検部で、お話をうかがったことがありました。写真集『いのる』に、心より深く共感します。何時何処で生まれ、誰に出会ったのかで、人生の意味が全く異なります。学び続けたかったマスードの気持ち、長倉さんの祈りを受け止めて、まだ生きている私はもっと自然と文化の歴史を深く学びたい。

民族植物学ゼミ第5回 日時・場所：未定。

①農耕文化について学び直したいと思います。

テキスト；中尾佐助 1966、『栽培植物と農耕の起源』、岩波新書(重版あり)、再読したいロングセラーです。参考図書；同左(1967)、農業起原論、森下正明・吉良竜夫編『自然—生態学的研究』、中央公論社、所収。佐々木高明 2013、『日本文化の源流を探る』、海青社、大津。

②自然と感じ合う農耕の楽しさを語り合いたいと思います。民族植物学ゼミ第4回で出た話題を深めます。テキスト；レイチェル・カールソン(1956)、上遠恵子訳(1996)『センス・オブ・ワンダー』、新潮社。参考図書；同左(1962)、青樹築一訳(1974)『沈黙の春』、新潮社。

扶桑ゼミ第3回 日時・場所：未定。

日本村塾で学びたい方があれば、ゼミもしたいです。

①明治維新から150年の日本の在り方を学び、考え直したいと思います。

テキスト；羽仁五郎(1956)『明治維新—現代日本の起源』、岩波書店(絶版中古有)。参考図書；原田伊織(2015)『明治維新という過ち』、毎日ワズ；西鋭夫(2016)『新説・明治維新』、ダイレクト出版；西野辰吉(1972)『秩父困民党』、講談社；森田康夫(1993)『大塩平八郎の時代—洗心洞門人の軌跡』、校倉書房。その他。

②柳田民俗学「稲作単一民族説」の瑕疵や関連して新旧憲法の比較なども話し合ってみたいです。

7. 民族植物学第11号の仮編集を進めています。予定された方々のご寄稿を今しばらくお待ちしています。環境学習セミナーの報告、野生植物の利用、九州・沖縄の雑穀栽培などを準備しています。・・・バックナンバーは第7号～第10号まで少しあり、希望者に差し上げます。第1号から第10号まで、すべての記事はホームページで読めます。

8. 『雑穀のインド亜大陸』は民族について学びながら、ネパール・ブータン、パキスタンおよびインド各州について、個人の現地調査の体験をまじえながら、自由に書いています。読書ばかりで原稿書きはなかなか進まずに、未定稿ですが順次章ごとに公開し、必要に応じて改訂していきます。同じく、『日本雑穀のむら』および『環境学習原論』も書き始めました。ともに、下記の個人ホームページから引用してくださる場合は、「木俣美樹男(2017未定稿)」としてくださるようお願いいたします。

自然文化誌研究会(東京都日野市)：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳(東京)、小川泰彦(埼玉)

ミューゼス研究会／トランジション小菅(山梨県小菅村)：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館(山梨県小菅村)：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男(東京)、西村俊(石川)、藤盛礼恵(千葉)ほか

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦(山梨県小菅村) npo-inch@wine.plala.or.jp

公式HP：自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行：木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

写真



自然文化誌研究会の雑穀畑



イノシシに食害されて全滅したサツマイモ



ミレット藤野の雑穀畑